

第3節 圏域の設定

都は、福祉サービス及び保健医療サービスの一体化・総合化を図る観点から、介護保険施設等の適正配置の目安となる老人保健福祉圏域を、二次保健医療圏域^注に一致させて設定しています。



圏域名	構成区市町村
区中央部	千代田区 中央区 港区 文京区 台東区
区南部	品川区 大田区
区西南部	目黒区 世田谷区 渋谷区
区西部	新宿区 中野区 杉並区
区西北部	豊島区 北区 板橋区 練馬区
区東北部	荒川区 足立区 葛飾区
区東部	墨田区 江東区 江戸川区
西多摩	青梅市 福生市 羽村市 あきる野市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町
南多摩	八王子市 町田市 日野市 多摩市 稲城市
北多摩西部	立川市 昭島市 国分寺市 国立市 東大和市 武蔵村山市
北多摩南部	武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 小金井市 狛江市
北多摩北部	小平市 東村山市 清瀬市 東久留米市 西東京市
島しょ	大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村

(注) 「二次保健医療圏域」

二次保健医療圏域は、原則として特殊な医療（腎移植、高圧酸素療法、広範囲熱傷など）を除く一般の医療需要に対応するために設定する区域で、入院医療を圏域内で基本的に確保するとともに、医療機関の機能連携に基づく医療サービスと広域的、専門的な保健サービスとの連携などにより、都民に包括的な保健医療サービスを提供していく上での圏域であり、その整備を図るための地域的単位である。

また、医療法第30条の3第2項第1号の規定により、主として病院の病床の整備を図るべき地域的単位として設定する医療計画上の区域でもある。

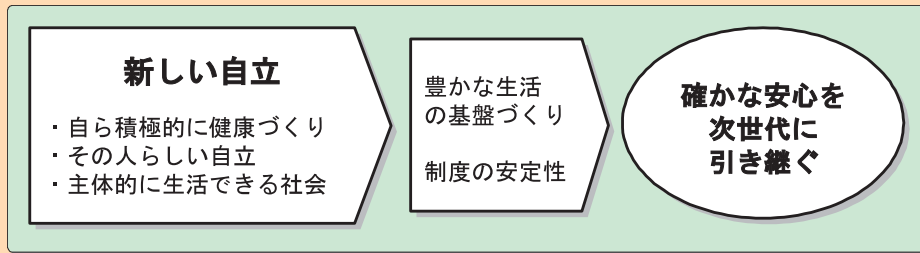
「福祉・健康都市 東京ビジョン」(平成18年2月策定)

福祉保健局では、「福祉改革」「医療改革」をさらに推進し、大都市東京にふさわしい福祉・保健・医療サービスを一層充実していくことを目指し、今後の施策展開にあたっての基本方針をまとめました。

〔目的〕

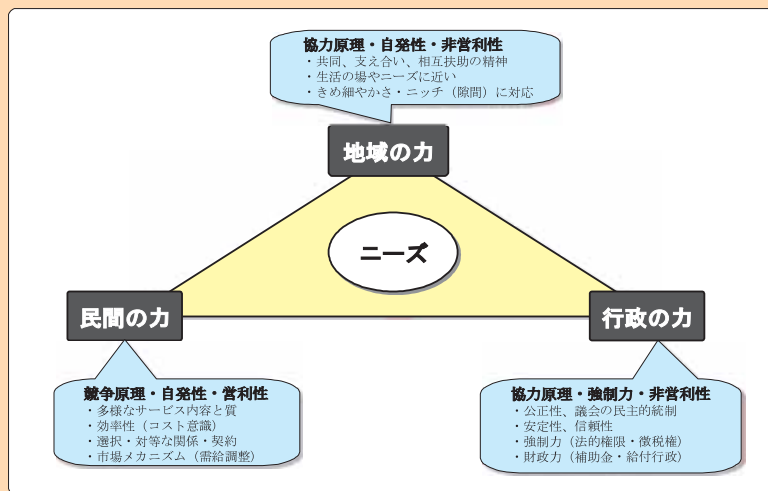
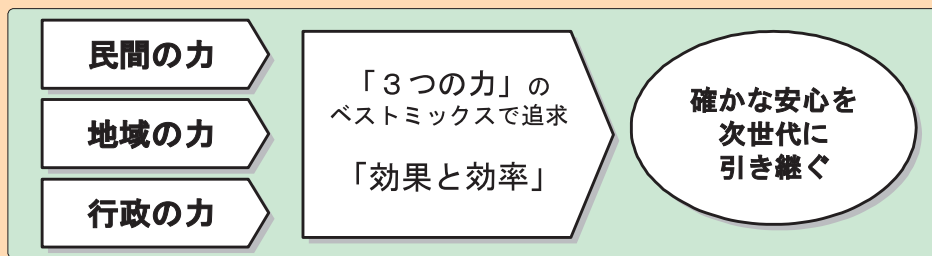
「新しい自立」の実現

～「豊かな生活の基盤」と「制度の安定性」の両立～



〔視点〕

- ① 一人ひとりの「ライフステージと生活の全体」を捉える
～「新しい自立」のためのニーズを把握～
- ② 大都市「東京」の特性を踏まえる
～「課題」を克服し、「強み」を活かす～
- ③ 「民間の力」「地域の力」「行政の力」の3つの力を活かす
～「3つの力」のベストミックスで、「効果と効率」を追求～



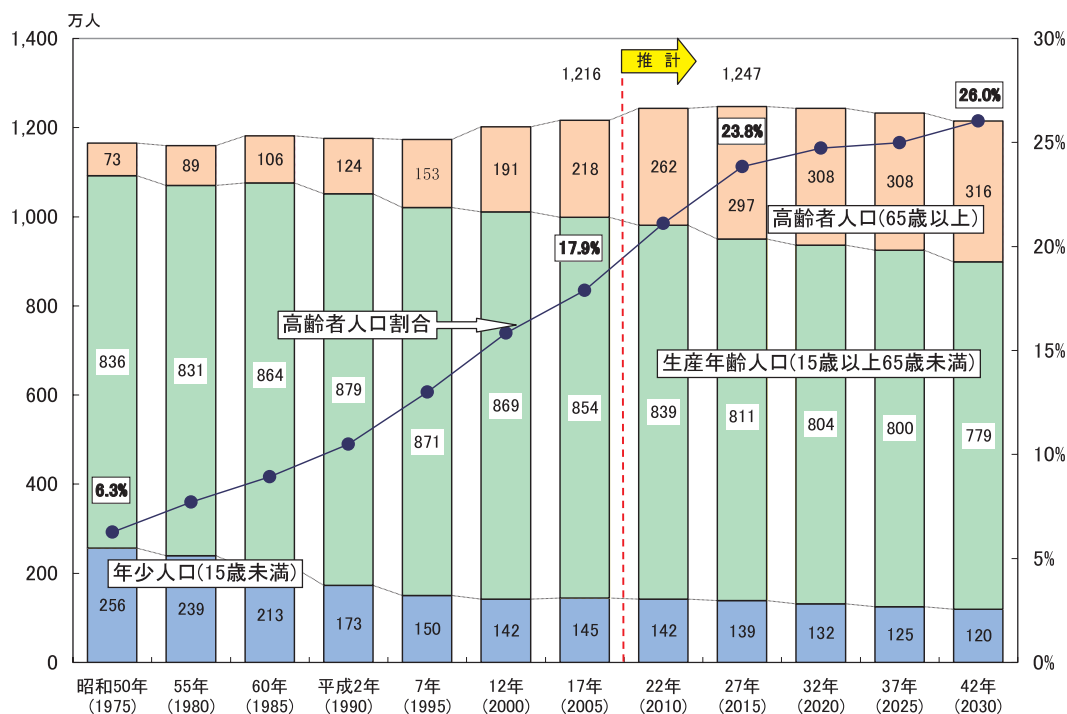
第2章 東京の高齢者を取り巻く状況

第1節 人口構造

1 高齢化の進行

平成17年（2005年）1月現在の住民基本台帳による東京都の65歳以上の高齢者人口は約218万人であり、人口総数に占める割合は、17.9%となっています。

高齢者人口は、平成27年（2015年）まで急速に増加し、その後はおおむね安定的に推移すると見込まれています。高齢者人口が増加する一方で、東京都の総人口は全国より若干遅れて平成27年（2015年）から平成32年（2020年）までの間に減少に転ずる見込であることから、高齢化率は上昇を続け、平成27年（2015年）には23.8%、平成42年（2030年）には26.0%に達し、都民のおよそ4人に1人が65歳以上の高齢者という極めて高齢化の進んだ社会が到来することが見込まれています。



資料：総務省「国勢調査」[昭和50年～平成12年]

国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(平成14年3月推計)[平成22年～平成42年]

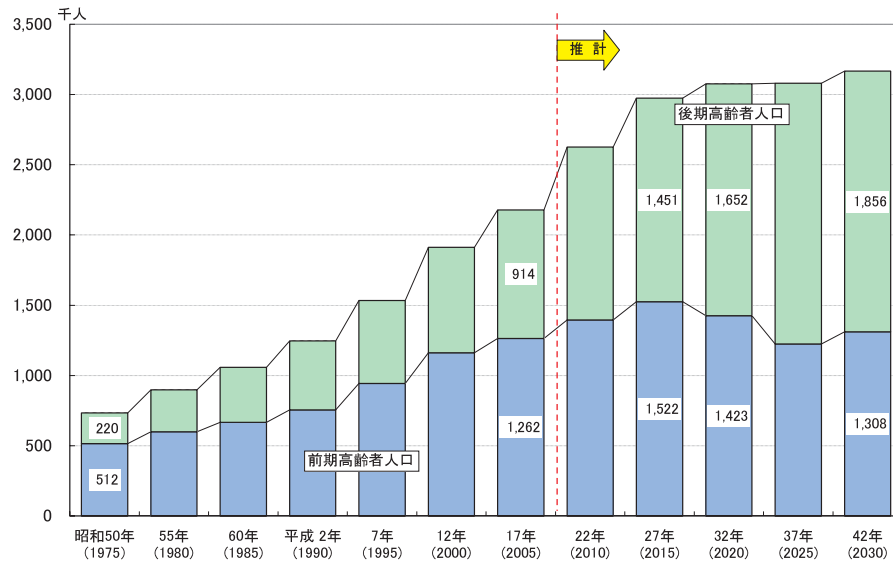
東京都総務局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成17年1月)[平成17年]

(注1) 平成17年は住民基本台帳による1月1日時点の数値である。

(注2) 平成22年以降は、平成12年国勢調査をもとにした推計である。

2 後期高齢者人口の増加

高齢者人口の推移を、前期高齢者と後期高齢者^注に分けてみると、平成27年（2015年）までは前期高齢者、後期高齢者ともに増加していきますが、平成32年（2020年）には、後期高齢者の数が前期高齢者の数を上回り、65歳以上高齢者の半数以上を後期高齢者が占めることが見込まれています。



資料：総務省「国勢調査」[昭和50年～平成12年]

国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(平成14年3月推計)[平成22年～平成42年]

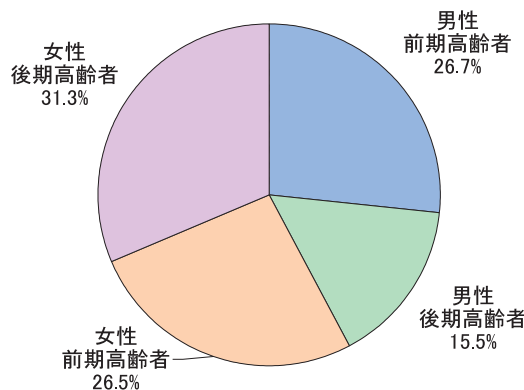
東京都総務局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成17年1月)[平成17年]

(注1) 平成17年は住民基本台帳による1月1日時点の数値である。

(注2) 平成22年以降は、平成12年国勢調査をもとにした推計である。

3 高齢者の男女別・年齢階級別構成

65歳以上の高齢者を男女別・年齢階級別（前期高齢者・後期高齢者別）にみると、後期高齢者のおよそ3分の2が女性となっています。



資料：東京都総務局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成17年1月)

(注) 前期高齢者と後期高齢者

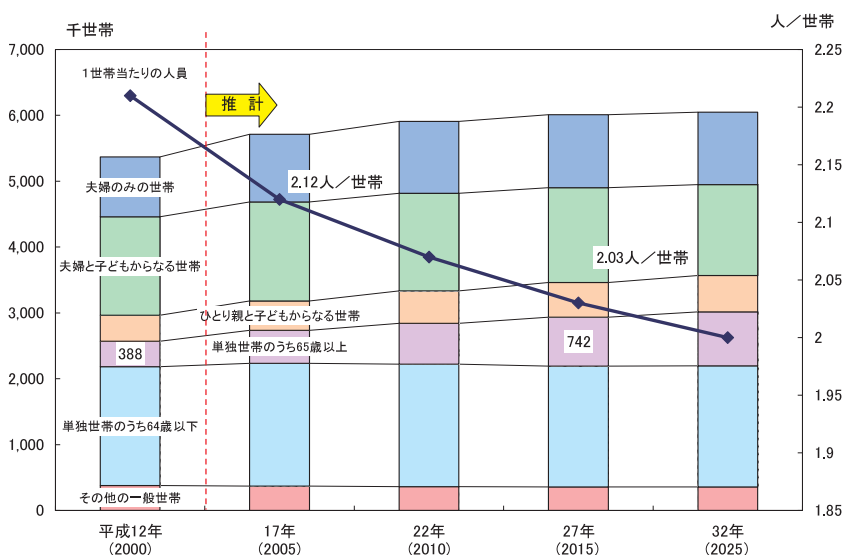
65歳以上の高齢者のうち65歳から74歳までを「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」という。

第2節 世帯の推移

1 世帯数の推移

都内の65歳以上の高齢者の一人暮らし世帯は、平成12年(2000年)国勢調査によると約39万世帯となっています。今後も増加が見込まれ、平成27年(2015年)には、約74万世帯、全世帯の12.2%を占めることが推計されています。

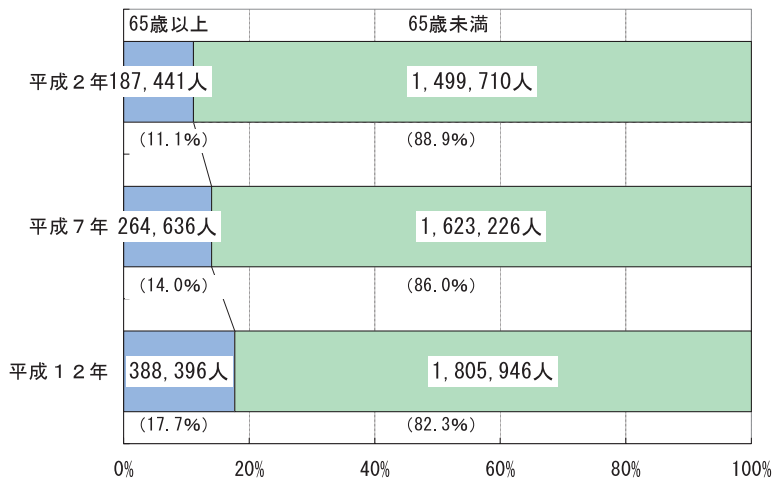
また、平成17年(2005年)1月現在の住民基本台帳における東京都の世帯数は約584万世帯、一人当たり世帯の人員は2.08人となっており、下図の推計値(2.12人)に比べて一層低下していることがわかります。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」(平成17年8月推計)
 (注)平成17年以降は、平成12年国勢調査をもとにした推計である。

2 一人暮らし世帯の推移

一人暮らし世帯を65歳以上の高齢者とそれ以外に分けてみると、高齢者の占める割合が高くなってきています。

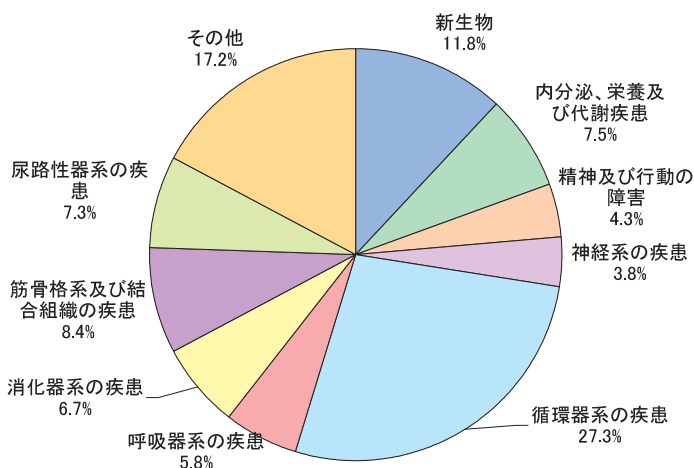


資料：総務省「国勢調査」

第3節 高齢者の健康状態等

1 高齢者の受診状況・疾病構造（医療費の構成）

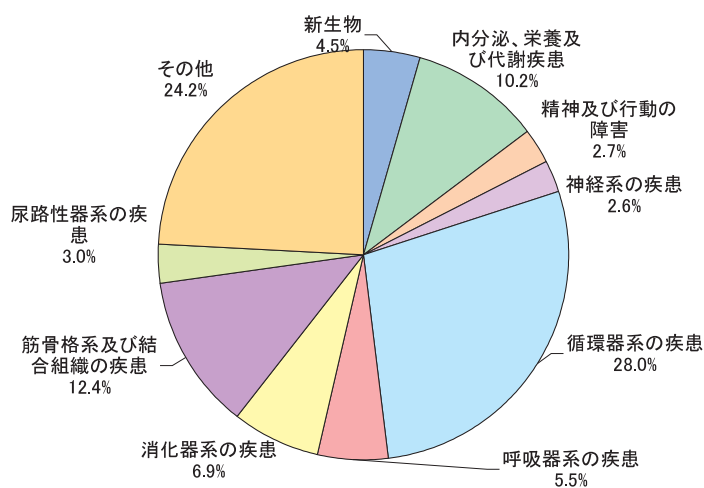
高齢者の健康状況をみるため、65歳以上の高齢者の医療費（歯科診療を除く。）の保険給付額の構成をみると、脳梗塞や高血圧（症）などの循環器系の疾患が27.3%と最も多く、次いで骨粗鬆症や膝関節症などの筋骨格系及び結合組織の疾患、糖尿病や高脂血症などの内分泌、栄養及び代謝疾患と続いています。



資料：「東京都国民健康保険団体連合会：疾病統計分析システム（平成17年5月診療分）」を加工

2 高齢者の受診状況・疾病構造（件数の構成）

65歳以上の高齢者の受診件数（歯科診療を除く。）の構成をみると、循環器系の疾患が28.0%と多く、次いで筋骨格系及び結合組織の疾患、内分泌、栄養及び代謝疾患と続いています。



資料：「東京都国民健康保険団体連合会：疾病統計分析システム（平成17年5月診療分）」を加工